

科目名	自立活動の指導の実際 基礎編 (S)				B
	サブタイトル	教育は生命保持活動へアプローチできるか			
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	西郷建彦				
担当教員の実務経験	特別支援学校において、自立活動教諭や担任などの活動実績がある。また、地域の学習会や教員向けのセミナーなどで、講義や実技指導を行っている。これらに関する特別支援学校教諭及び養護・訓練の教員免許を有している。				
オフィスアワー	非常勤講師のためUHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態	講義 実習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	面接授業				
資格等 関連科目	自立活動教諭				
科目コード	B149S				
科目区分	こころとからだの関係				
使用教材	教科書	・『新しいうんどう「基礎のうんどう」』、西郷建彦（著）、「ジグダイ社」、2024年 出版予定（出版されない場合はテキストとして資料を準備する。）			
	参考書等	・『筋の機能解剖』、John H. Warfel（著） 矢谷令子／小川恵子（訳）、「医学書院」、1993年、第4版			
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、障害のある子どもたちの自立活動の内容の基礎的な部分を扱う。誰もが、必ず経験しなければならない学習内容の理解と方法などの習得を図る。また、すでに学んだ「基本のうんどう」に、「基礎のうんどう」から健康に関することと得意なことを伸ばすための学習内容を加えることによって、基礎的な指導プログラムが作成できることを学ぶ。				
キーワード	「基礎のうんどう」／指導プログラム／教科指導／自立活動／子どもにとっての課題				
テキストの内容 及びアドバイス	本書は、基礎的な自立活動の学習内容について、いろいろな指導方法を総合的に使って指導できるよう構成されている。また、必要な医学的知識も自然と覚えられるように構成されている。 テキストから障害のある子どもに必要なと思われる健康に関わることと得意なものに繋がる学習内容を選び、「基本のうんどう」に加えて基礎的な指導プログラムを作成し、実際に子どもたちに行ってください。				
一般目標 (GIO)	自立活動の指導が自信をもって行えるために、基礎的な指導のあり方と指導プログラムの作成及び方法を学び、どんな障害のある子どもたちにも、自立活動における基礎的な指導ができるようにする。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	①「基礎のうんどう」の自立活動における位置づけを説明できる。 ②「基礎のうんどう」の自立活動における意義を説明できる。 ③自立活動における基礎的な指導プログラムが作成できる。 ④子どもの障害の状態や行動を受容する態度をもっている。 ⑤子どもの障害の状態や行動に共感する態度をもっている。 ⑥子どもの障害の状態や行動の変化を待つ態度をもっている。 ⑦子どもを包み込むような受容的な触れ方ができる。 ⑧子どもと一緒にいるような共感的なゆらし方ができる。 ⑨子どもの動きを待ちながら動かすことができる。 ⑩神経生理学的な配慮を持って、子どもにアプローチできる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育			

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ▪ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 <p>2. 専攻する学部・学科の専門科目を通じた医療・健康・食・栄養の専門職教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ▪ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力 												
	<p style="text-align: center;">人間科学部</p> <p>人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。</p>												
	<p style="text-align: center;">心身健康科学科に関連する項目</p> <p>2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること</p> <p>4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること</p>												
カリキュラムポリシーとの関連	<p>人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る 												
	<p style="text-align: center;">人間科学部</p> <p>人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る 												
	<p style="text-align: center;">心身健康科学科に関連する項目</p>												
評価方法・基準	<p>評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 講義における授業態度(20%)と指導の実際の手技(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。</p>												
課題に対するフィードバックの方法	<p>スクーリング中に行われる講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。</p>												
スクーリング履修における授業準備(予習・復習)の具体的な内容及びそれに必要な時間	<p>【予習】 教科書を精読する。また、疑問点を整理しておく。（1コマにつき2時間程度）</p> <p>【復習】 教科書を見ながら、自分で体験する。（1コマにつき2時間程度）</p>												
スクーリング履修での講義内容	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th colspan="4">授業計画</th> </tr> <tr> <th style="width: 10%;">時限</th> <th style="width: 40%;">学習内容</th> <th style="width: 30%;">キーワード（重要語句）</th> <th style="width: 20%;">担当教員</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	授業計画				時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員				
授業計画													
時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員										

1時限	生命保持活動への教育としてのアプローチ①	教育としての生命保持機能へアプローチはできるのか。重度重複障害児にとっての最も重要なものの一つである呼吸、拘束性換気障害についての検討する。 教育としてのアプローチ/呼吸のメカニズム/拘束性換気障害	西郷建彦
2時限	生命保持活動への教育としてのアプローチ②	重度重複障害児の多くのケースでの呼吸障害である閉塞性換気障害について扱う。また、関連した嚥下、排泄、血行について検討する。 閉塞性換気障害/嚥下/排泄/血行/生命保持活動への教育としてのアプローチ	西郷建彦
3時限	手足	感覚器としての性質を持つ手足に、いろいろな種類の変化にとんだ感覚入力をすることを学ぶ。 手/足	西郷建彦
4時限	体の前側	「基本のうんどう」で扱っていない体幹の前側のボディ・イメージを正常化して、呼吸障害の改善につなげることを学ぶ。 胸/顎下/口	西郷建彦
5時限	手足の付け根	上肢帯、下肢帯、それらの周辺部のボディ・イメージを正常化して、呼吸やスムーズな関節運動につなげることを学ぶ。 肩/上腕/腰/大腿	西郷建彦
6時限	仰向けからうつ伏せへ 体の後側	立ち直り反応の促進による体幹の回旋を行い、身体の後側のボディ・イメージを正常化して、安定した腹臥位につなげることを学ぶ。 体幹の回旋/背中/中心と輪郭	西郷建彦
7時限	体幹と手足へのつながり うつ伏せから仰向けへ	体幹から上肢や下肢が離れる（分離する）イメージの体験によりボディ・イメージの正常化を図り、肘立て位によって抗重力姿勢の立ち直り反応やバランス反応につなげることを学ぶ。 体幹/肘立て位/立ち直り/バランス	西郷建彦
8時限	「基礎のうんどう」の実際	参考事例から「基本のうんどう」に「基礎のうんどう」から選択した学習内容を加え、基礎的な個別指導プログラムを作成して、実際に「基礎のうんどう」を行う。 基本のうんどう/+a1/+a2/基礎のうんどうプログラム	西郷建彦
授業評価アンケートに基づく改善点	今期より新しく開講した科目となります。このため、評価アンケートデータはありませんが、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。		
方略	まずは、触れ方、動かし方、ゆらし方の正しい基本手技を行うこと。次に、ポイントとなる箇所を明確に意識しながら、正しい基本手技を使ってお互いに役割（子ども側、教師側）を交代しながら体験していく。この際特に、施行される側（子ども側）になった時に感じたことを大切にする。ややもすると施行する側（教師側）に力点が置かれやすいが、あくまでも学修は施行される側（子ども側）であることを忘れないでほしい。		
連絡事項	「基本のうんどう」に加える「基礎のうんどう」から選択した学習内容は、担当している教師の観察上の根拠によるもので良い。万が一効果が現れないときは、中間評価の時に、「基礎のうんどう」から選択する学習内容を検討してほしい。その中で、また観察する力や基本手技の力も増すはずである。とにかく繰り返し実践してほしい。ポイントになる箇所については、参考書などを使い、解剖学的な視点も育てるようにする。		